

設立趣旨書

1 趣旨

スウェーデンのグレタトゥーンベリは、8歳の時2011年に気候変動を知り、未来への危機感を抱き2018年に「より良い気候対策」を求め15歳でスウェーデン議会に呼びかけ、大人に対して抗議行動とスピーチを始めた。そして、ノーベル賞を受賞した。我々の世代は、20世紀後半からの化石燃料を大量に使う文明の中、人生を謳歌してきた。そのことで、地球環境や生態系を壊し、人類の存亡まで危うくし、未来を生きる若者に対して大きな負の遺産を遺すことになってしまった。我々は知らないふりしてこれからの老後を生きていくのではなく未来を生きものにして、次の世代にバトンタッチをするべきと考える。気が付いた者から行動を起こすべきである。設立時の参加メンバーは全て九州大学農学部出身で、食に関わる知識を身に付け、社会で活躍したものである。現在、環境対策として取り組まれている施策の中には、グリーンウォッシュが多数含まれている。我々の役割は、生きものにとっての持続可能な環境の正しい知識や取り組みを社会に伝え、また、体に良い食べものの持続可能な生産方法と正しい情報を伝え、未来をより良くし、健康で文化的な生活を営むために個人が行動を起こすきっかけをつくることである。

我々は、そのための活動基盤となる組織としてNPO法人を設立する。既に気が付いた若者は、世界中で行動を起こしている。我々は、若者に後れを取ってはならないのである。

2 申請に至るまでの経過

大学や会社勤めからそのまま引退して社会とのかかわりを閉じてしまうのはもったいないということで、設立代表者らが以前から活動基盤としてのNPO法人の設立を検討、準備をしていた。

過日、大学の同級生による古希のお祝い会を行った。参加者が現況を伝える中、一人が地域貢献のためのボランティア活動を行っていることを報告した。それがきっかけとなり、我々の知識、人脈をこのまま眠らせるのはもったいないということになり、以前から準備をしていた素案を基にNPO法人を立ち上げることとした。参加者12名全員が設立に賛成、福岡在住者が打ち合わせを行い、素案詰め申請書類の作成を行うこととなった。

令和5年 11月 3日

特定非営利活動法人生きものと食べものの未来

設立代表者 住所又は居所

福岡市中央区港2丁目1番9-201号

氏名 川上 龍太郎